

冒険、冒険また冒険

ーライオン隊の行くところ、試練が待ち受ける・・・スキー合宿ー



【歓声】 「やったー」「これでもう一泊だ!」。新千歳空港2月26日、空港閉鎖のため仙台行きJAL 2908便の欠航を伝えると、不安の声ではなく、歓声が上がりました。スタッフたちがこの状況に青い顔になっていても「もっといっしょに遊びたい」ライオン隊は大喜び。本当にこの旅も、試練に次ぐ試練。冒険に次ぐ冒険でした。



そもそも万石浦を25日(土)6:30にスタートするときには大雪。前日の家庭訪問の時には、スキー旅行を楽しみにしている子どもたちの様子がよく伝わってきましたから、当日は時間通りに全員集合。バスは雪の中を進みます。仙台空港に着いてみたらなんと乗るはずの飛行機が欠航。あわててスタッフが24人分のチケットを他の2便に振り替えて席を取りました。それも時間との勝負。もう少し遅ければ満席になって席が取れないところでした。でもまだ飛行機は飛びません。先に東京から新千歳に入ったグループはバスを待たせたままヤキモキ。振り替えた便も欠航になったらどうなるんだろう。仙台空港では待ちくたびれた子どもたち。「まだ〜?」「スキーできなくなっちゃう・・・」。だけど前よりは我慢ができるようになった様子。パニック直前でも良い子にしています。

それでもライオン隊は強運の持ち主。4時間遅れで新千歳に到着し、バスはニセコへと向かいました。

【初めて滑る】 雪が降りしきる夕暮れ、宿へ到着したライオン隊は、さっそく借りたスキーウェアに着がえ、スキー板を持って外へ集合。ゲレンデにいける時間ではありません。そこで、宿の前の道が軽くスロープになっていることを利用して、スキーの練習。初めてスキーを履く子どもたちがほとんどですが、おとなの様子を見ながらそれぞれがものすごい勢いでチャレンジです。一度転ぶとなかなか起きあげられません。起き上がっては転び、それでもまた起き上がって滑り出す。そんな子どもたちを見ていたら、10月頃にみんなでシャボン玉をつくったことを思い出しました。あの時、できないシャボン玉をそれぞれが一生懸命につくっていました。今回もあきらめることなく、1年生から6年生までが黙々と挑戦する姿は、とってもしんどく見えました。



食事の時間には、誰が言うともなしに、ご飯をよそったり、お味噌汁をテーブルに運んだり、自ら進んでお手伝い。おとなの指示で動くものではありません。自分たちで見事に連携プレー。そんな姿に、成長を感じます。

食事の後は入浴と振り返りの予定ですが、子どもたちからは「外に出てスキーやってもいいですか?」の質問。仙台空港で5時間くらい缶詰になっていた子どもたち。部屋

で遊ぶよりも、外でもうちょっとスキーが上手になりたかったのでしょうか。許可が下りた後の子どもたちの動きは素早く、食事のかたづけ、入浴は超ハイスピードでした。

宿の明かりを頼りに再度「道路スキー」の始まりです。決して傾斜はきついわけではないのですが、それでもスキーを初めて履く子どもにとっては登るのに一苦労。へたをすると前を向いたまま後ろに滑って行ってしまいます。「横向きで、カニになるんだよ」とかけ声をかけても、結構我流でスキーを逆ハの字にして登ろうとします。感のいい子はそれでも上手になりました。もちろん滑るのは「直滑降」! 「どいてどいて」と叫びながら滑っていきます。止まりたいときには、雪に体を投げ出してストップ。なかにはスキー板を持って歩いて登り、何回も「滑り」に徹している子どももいれば、スロープ登りにこだわる子どももいます。



夜の「振り返り」の課題は「一年間を振り返ろう」でした。先月万石浦を訪れたときは子どもたちの状況も変わっていて、クラスで孤立したことから不登校になってしまった子どももいます。母親が毎日午前中に送っていく事態が続いていて、母親も疲れ切っている。担任の先生には話をしているが、改善は望めない。そんな話をスキー教室前日の家庭訪問でスタッフが聞いてきました。ライオン学校では元気に振る舞っている子どもも、その裏には大変なものをそれぞれの事情の中で背負っているのです。ですから、振り返りでのおとなの声かけが、子どもが紡ぐ言葉の質を決定します。スタッフにとって、自分が試されるときでもあり、一番緊張する時間です。昨年の地震から振り返りを始めることができた子どももいれば、学校でつらかったことを思い出して泣き出してしまい、言葉にならない男の子もいました。3月に行われる「お別れ会」に発表する作文のメモとして、今回の振り返りは行われました。当日、子どもたちからはどんな言葉が聞かれるのでしょうか。

【まだ暗い!】 振り返りが終わって、スタッフがミーティングをしているところに数人の男の子たちがやってきて、「明日は5時から滑るから・・・大人も参加ね!」と叫んでいました。ハイハイと、軽く聞き流していたおとなたち。きっとこれだけ動いたから、朝は起きられないだろう・・・。そんな計算が働いていました。しかし、次の日の早朝、子どもたちにたたき起こされたのです。時間は予告通りの5時。外に出てみるとまだ真っ暗。そんな暗闇の中、子どもたちはスキー板を履いて滑っているのです。昨夜だって、結構遅くまで騒いでいて、何度も注意されたのに、朝からのハイテンションにちょっと大人は引き気味。ずっと除雪車の音が、道の向こうから聞こえていました。

【ゲレンデへ】 宿から5分も歩けばそこはゲレンデ! リフトには朝から人が並んでいます。話では初心者用の「バンビコース」があるとのこと。「ちょっと無理して

みんなであらう」・・・。そんな甘い考えがライオン隊を冒険へと導きました。初めて乗るリフトに大人とペアになって座ります。リフトがあがるにつれてドキドキ感は最高潮。落ちたらどうなるの？そんなことをしつつ隣に座っている大人に聞きたくなくなってしまいます。リフトの終点では何とか降りたものの、動けずにみんなしゃがみ込んでいます。上から見る傾斜はとてきつ、下を見るのもこわいくらい。なかなか滑り出す勇気がわいてきません。どうやらバンビコースはこの急傾斜を下ったところから始まるようではありませんか。中には涙ぐんでいる子どももいます。おまけに雪は真横から吹き付けてきます。



「さあ、勇気をだしていくぞ！！」子どもたちの多くは、スキーで滑るのではなく、おしりで斜面を滑っていきます。それでもこわいし、なかなか前には進まないし、みんなから遅れるのもこわいし・・・。大人に板を預けてがんばります。子ども一人にスタッフが必ずついて、励まします。ほとんど動けずにいる子どももいます。でも、この斜面を下らないわけにはいきません。中には泣き出す子どもにスタッフも困り顔・・・。下から見上げると、カラフルな子どもたちのウェアが、真っ白な斜面にへばりついているように見えます。

やっとこさ時間をかけて急斜面を降りると、そこからは緩やかな下りです。大人に預けていたスキー板を履いて、自分なりに滑り降ります。何度も何度も転びながら、それでもあきらめず、いつもとは違う引き締まった表情でゴールを目指します。

スタートしたリフトの発着所がすぐ目の下に見えてきました。ここまで来ると、どの子ども体制を整え直して、かっこよく滑ります。先にゴールしている友だちに、いいところを見せるように、滑れるようになったところを自慢するように・・・。みんなさわやかな笑顔です。



ずいぶん大人に助けられた子どももいましたが、それでも全員が無事に到着して、満足そうです。そろっての記念写真には、笑顔がこぼれました。

【まだまだ続く試練の大冒険】 スキーを終えた子どもたちを乗せて、予定通りにバスは新千歳空港を目指します。「お土産買う時間ある～？」「お弁当早く食べたい！」相変わらずのライオン隊！元気いっぱいです。「飛行機が飛ばなかったらもう一泊止まろうよ」「そしたら学校行かなくていいでしょ？」不吉なことさえ口走っています。「まさか・・・」とは思いつつも、不思議な神通力があるライオン隊です。どうもこの頃「お別れしたくない」オーラがにじみ出ているので、ひょっとしたら・・・。雪はニセコを離れるにしたがって激しく降り続けています。

新千歳空港に着いたとたん、悪い予感的中。大雪によって新千歳空港の滑走路は閉鎖。除雪をするも、再開のめどは立っていないとのアナウンス。仕方ないので、お土産

を買って時間をつぶしていると、ライオン隊が乗るはずの飛行機は、仙台空港を出たものの着陸できないのですぐに引き返したとのこと。欠航が確定しました。

歓声を上げて喜びながら、「スキー場に引き返すの？」という子どもたちの質問を無視して、スタッフは大奔走。仙台から来たときのようにチケットを振り替えようとしても、どの便も満席で、羽田にも、仙台にも飛ぶことができません。「明日の9：00の便ならありますが・・・」。「それでは間に合わないんです。」いくら交渉しても飛行機が飛ばないんだからしょうがありません。電車はどうだろうか、海をフェリーで渡って後は車でどうだろうか。しかし、どれをとっても万石浦への到着は朝の遅い時間になってしまいます。そこで、幸運にも唯一座席が空いている成田行きにチケットを振り替えて、成田からレンタカーで万石浦まで送ることに決定。

成田に到着したのがもう21時30分。疲れ切っているはずの子どもたちですが、わがまを言う子もいませんし、重い荷物もしっかり自分で運んでいます。冒険が、一人ひとりを本当に強くしたようです。

東北道を石巻に向けて北上する車の中は、子どもたちの寝言といびきと歯ぎしりで、ずいぶん賑やかでした。早朝4時、各家庭にやっと無事に子どもたちを送り届けました。「学校に行つてね」と言いながら別れましたが、さてどうなることやら。そんな心配をしながら、またスタッフは成田に車を走らせました。

【支援隊活動記録 2月7日～2月29日】

■石巻市万石浦子ども支援

○2月24日～26日（第21回）万石浦ライオン学校のスキー合宿

□支援隊メンバー：柿本隆夫（引地台中学校）、松永雅文（大和市特別支援教室）、家上幸子（Ed.ベンチャー事務局長）、清水睦美（東京理科大学）、西館健吾・福島良彦・小沼慶多・高柳恭介（引地台中学校）、下新原なつみ・吉間里依（大野原小学校）、保坂克洋（立教大学院生）、今井美里・甘利悠希・大林沙紀・古浦新司（東京理科大学学生）、藤原弘輝（引地台中学校3年生）、清水いく江

■ご協力いただいたみなさま（敬称略、順不同、物資・寄付を含む）2/7～2/29

大八木直子（横浜市立笹野台中学校）、堀健志（上越教育大学）、大野かよ、柿本隆夫（引地台中学校）、松永雅文（大和市特別支援教室）、清水睦美（東京理科大学）、西館健吾・福島良彦・小沼慶多・高柳恭介（引地台中学校）、下新原なつみ・吉間里依（大野原小学校）、保坂克洋（立教大学院生）、今井美里・甘利悠希・大林沙紀・古浦新司（東京理科大学学生）

今後の継続的な支援の活動のために広く寄付を募っております。

横浜銀行 中央林間支店 普通6018180

Ed.ベンチャー東日本大震災支援（Edベンチャーヒガシニホンダイシンサイシエン）

NPO法人教育支援グループ Ed.ベンチャー

〒242-0007 大和市中央林間 3-16-12-107

Tel/Fax:046-272-8980 e-mail: toiwase@edventure.jp

